信州大学知の森基金を活用したグローバル人材育成のための短期学生海外派遣プログラム
実施状況および成果（広報用）

プログラム名	**レーゲンスブルク大学・デュッセルドルフ大学現代ドイツ研修プログラム**	
学部・研究科名	人文学部	
プログラム 実施期間	2019年8月23日～2019年9月20日	
研修先(国・都市・施設名)	ドイツ連邦共和国・レーゲンスブルク大学、デュッセルドルフ大学	
参加者数 ： 7名		知の森からの支援者 ： 2名
プログラム概要	本プログラムは金沢大学と合同で行い，ドイツ・レーゲンスブルク大学及びデュッセルドルフ大学に本学学生を派遣し，現代ドイツの諸問題に関するセミナー研修およびドイツ語研修を通じて，ドイツ語能力向上，現代ドイツに対する知見の深化，海外生活，海外における学習経験による人間力の涵養を目指すものである。 本プログラムは，8月後半から4週間にわたって実施され，3週間の語学研修を中心としたピリオドと現代ドイツに関するセミナー研修についてのレポート及び成果発表，事前学習への取り組みなどを総合して評価を行う。	

実施状況・成果

8月後半から4週間にわたり行われたレーゲンスブルク大学・デュッセルドルフ大学現代ドイツ研修プログラムにおいて、参加学生は3週間の語学研修を中心としたピリオドと現代ドイツに関連するセミナー研修についてのレポート及び成果発表を行った。

具体的には、参加学生は平日の午前中、レベル別に分かれたクラスにおいて、ネイティヴ教員によるドイツ語の授業を受講する。午後は、希望に応じたワークショップ（演劇、料理、合唱、地域文化）やチュートリウムに参加することで、研修中および事前学習を通じて学んだドイツ語を実際に運用する機会を得た。また、周辺の施設（バイエルン博物館、レーゲンスブルク大聖堂、トゥルン・ウント・タクシス城、プルン城、ビール醸造所、ヴァルハラ神殿など）を訪れ、ドイツ語によるガイドを通じて、ドイツ語力の涵養のみならず文化・歴史について学習した。さらに学生には2回ずつ、発音のトレーニングをネイティブスピーカーとマンツーマンで受ける機会がもうけられた。今年度のプログラムの様子はレーゲンスブルク大学のHP内でも紹介されている。
（リンク：https://www.uni-regensburg.de/pressearchiv/pressemitteilung/1013273.html）

プログラム後半ではドイツ北西部のデュッセルドルフへ移り、現代ドイツに関連するセミナーに参加した。またギムナジウム（おおよそ日本の小学5年から高校3年にあたる）で日本語を学ぶドイツ人とドイツ語および日本語を用いながら交流し、互いの言語・文化の違いについて議論した。

上述の活動を経て参加学生はドイツ語だけではなく、ドイツの文化・歴史について体験をともなった学習をした。しかしそれだけではなく、一定の期間ドイツに暮らすという経験により、参加学生はさまざまな場面で日本との違い（ときにそれは戸惑いを伴う）に直面しながらも、周囲の人間と協力してそれを乗り越え、コミュニケーションの重要性を改めて学んだ。同時にこのような差違は、ドイツのことを学ぶばかりではなく改めて日本について、さらには異文化という現象について目をむける恰好の機会となり、この気づきにより参加学生はプログラム終了後も未来のグローバル人材となるべく、各々の関心に沿いながらより明確な目的意識をもって学習することができるだろう。こうした点もまた、本プログラムの目指すところであり、今回の研修でも確かに得られた成果である。

学生の声①－人文学部　学生

はじめてドイツに行って、多くの知らないことに遭遇した。スーパーひとつをとってみても、知らないもの、あるいは知っていても日本のそれとは大きく異なっていて驚くことが多かった。ドイツ語は出発前から勉強していたが、まだまだネイティヴの方のドイツ語を聞き取るのは難しいと思った。しかし、こちらが話すたどたどしいドイツ語が相手に通じたときは、その分、喜びが大きかった。またそのような時に、こちらの言うことを理解してあげたいという相手の姿勢が強く印象に残った。私も日本で、日本語を学ぶ留学生に対して同じようにできればと思う。

学生の声②－人文学部　学生

ドイツでの語学研修では、様々なドイツの文化に触れながらドイツ語を学ばせていただきました。街並みや食生活、交通機関の制度も日本とは全く異なっていて、カルチャーショックばかりでした。寮の同じ部屋の学生、大学の先生や街の人は、とても気さくで親切な人たちです（たまに変な人もいます）。聞こえてくる言葉や話しかけられる言葉はすべてドイツ語か英語なので、暮らしているだけで自然と勉強になります。日本の他の大学の学生や、日本語を学ぶドイツの学生ともたくさん交流できてとても充実した研修になりました。

デュッセルドルフ大学・ハインリヒ・ハイネ像の前で

教室にて